



オオキチくん通信

2023年4月号

発行: NPO法人森からつづく道

URL: <http://morimichi.org/>

★上記HPからダウンロードできます

2019年の1&2月号(ごう)からおとどけてきたオオキチくん通信(つうしん)ですが、この号で「ちょっといっぶく」です。また会えたらいいなあと思っているので、オオキトンボのことわすれないでね!

独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて作成しています。



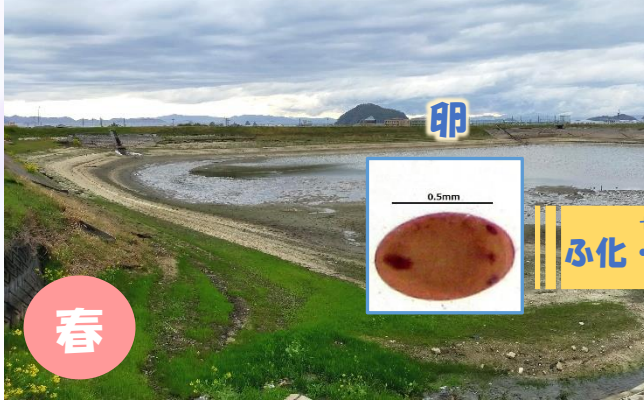
協力: 風早活性化協議会

オオキトンボの卵がふ化する季節(きせつ)です!

今年の夏(なつ)は、オオキトンボがたくさん羽化(うか)するかも?

3月ごろからため池に水が入ると、砂(すな)の上にあった卵が水につかって“ふ化”します。

ふ化した幼虫(ようちゆう=ヤゴ)は、何回も脱皮(だっぴ)をして、6月には2cmくらいになります。



水がふえてきたため池

水がいっぱいになったため池

オオキトンボの卵はゴマつぶの1/10くらいの大きさで、まえの年の秋、ため池の水ぎわに産(う)みつけられています。3月ごろから田植えのために、ため池に水が入れられることによって、卵は水につかって“ふ化”してヤゴが出てきます。この水入れがおそくなると、暑(あつ)さや乾燥(かんそう)のために、卵はふ化できずに死んでしまうと考えられています。今年は、3月のはじめから水入れが始まりました。このまま順調(じゅんちょう)に水がふえれば、初夏(しよか)にはたくさんのオオキトンボが羽化(うか)しそうです。(武智礼央)

生きものニュース

人気者のアメリカザリガニとアカミミガメ、野外(やがい)にはなすことは法律(ほうりつ)で禁止(きんし)に!



2023年6月から、アメリカザリガニとアカミミガメのなかま(3種類)は、法律(ほうりつ)で、条件付特定外来生物(じょうけんつきがいらいせいぶつ)になり、**売(う)る、買(か)う、野(や)外(がい)に放(は)す**ことができなくなります。捕(と)ったり、飼(か)ったりすることはOKです。

アメリカザリガニとアカミミガメは、日本にもともといる水生(すいせい)昆虫(こんちゆう)や水草をもりもり食べます。飼(か)っている人は絶対(ぜったい)にがさないでね。ふえすぎると飼(か)うのがたいへんになるので、オスとメスをべつのケースで飼(か)うなど、くふうしよう。(武智礼央)

あのムシは今!? (ヒメツチハンミョウ)



かこみの中は葉(は)を食べているようす

コウチュウの仲間(なかま)ですが、やわらかい体(てい)をしています。秋(あき)に成虫(せいちゆう)になり土(つち)の中で越冬(えっとう)し、春(はる)にはいだしてきます。この虫(むし)が出てくると春(はる)らしくなってきます。肢(あし)の関節(かんせつ)から毒(どく)を出すのでさわらない方がいいですね。(文・若山勇太/写真・武智礼央)

今が旬！
生きもの情報

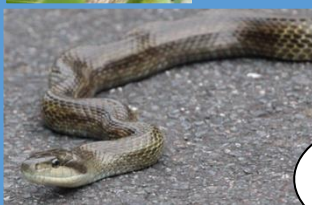
あなたの知らないヘビたち
～お顔はかなりイケメン～



アオダイショウ



イケメンでしょ！



ワタシの方が
イケメンだわ



シマヘビ



見たこと
あるかい？

ヒバカリ



写真：松田久司氏

ジムグリ



シロマダラ

毒(どく)をもっているヘビ



ニホンマムシ



ヤマカガシ

写真：松田久司氏

毒ヘビの特徴(とくちょう)はしっかりおぼえて、かまれないように注意(ちゅうい)してね！

ヘビは変温動物(へんおんどうぶつ)。冬は冬眠(とうみん)して、春になったら目ざめて、動(うご)き始めるんだ。

きらわれもののヘビだけど、生態系(せいたいけい)の中では大切な存在(そんざい)なんだ。いやがらずによく見てほしいな。

それぞれのヘビの特徴(とくちょう)をおぼえてみるといいね。子どもは成体(せいたい)と、もようがちがうので、調べてみるとおもしろいよ。身近なヘビの世界にも興味(きょうみ)をもって、うまくつきあってほしいな。(khashigoe)

ドングリでオールスター♡木の実にあそぼう！

公園(こうえん)を歩いていると、アベマキの小さなウロ(あな)にドングリがはさまっていました。さっそくひろってキャラクターの顔をかきました。目のかんじて表情(ひょうじょう)が変わって楽しいですよ。



今月の植物★スイバ



名前(なまえ)は、くきをかじるとともすっぱいから。葉のつけねが二つに分かれてとがっているのが特徴(とくちょう)。葉で10円玉をこするとピカピカになります。

ちょっと
いっぶく

手押しポンプ



河野小学校で手押しポンプを発見(はっけん)。手でパイプをおし下げて地下(ちか)の水をすい上げるものです。地震(じしん)などによって停電(ていでん)しても水が使えるので、さいきんふえています。

どうやったんかい！
外来生物 ㊸



ハルジオン (ハルジョオン)

北米原産(ほくべいげんさん)のキク科の多年草(たねんそう)。花はピンク色がかっていることが多く、くきは中(な)がくどうです。葉のつけねがぐるっとくきをだきこんでいるのも特徴(とくちょう)。ヒメジョオンの方が多(おほ)いですが、ハルジオンも空地(あきち)などに群落(ぐんらく)をつくっているのを見かけます。